

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会します。

まず、委員それぞれの活動について、所感などを報告したいと思います。

それでは私から報告をさせていただきます。

先月、教育委員会連絡会の中で幹部職員には報告しましたが、あまり知られてなかったということがございましたので、今日はこの場でそのことについてもお話をしたいと思います。

大阪府教育委員会が主催し、毎日新聞社が後援をする第8回おおさか子どもEKIDEN大会が、2月18日土曜日でございますが、大阪市住吉区のヤンマースタジアム長居とその周回道路で開催をされました。そこに出場の枚方の小学校が大活躍をし、学年の部では田口山小学校が優勝、クラスの部では香陽小学校が優勝、さらに学年の部3位に開成小学校、4位に春日小学校が入賞しています。区間優勝者も数名出ております。田口山小学校は2連覇達成ということでございました。本大会は第8回を迎え、枚方からは第1回の大会から出場しておりまして、毎回上位入賞を果たしております。そんなことから府下では枚方は駅伝の強豪校ぞろいのまちだと、評判にもなっているようです。そして他市からの出場校の目標に枚方になっているそうです。戦歴を申しますと、第1回大会が学年の部で津田小学校が2位、田口山小学校は3位入賞、それ以降の大会では毎回優勝と複数の小学校が上位入賞しております。特に圧巻であったのが第4回大会と昨年度の第7回大会です。第4回大会では田口山小学校が優勝、第2位が香里小学校でワンツーフイニッシュ、第7位にも樟葉西小、クラスの部で第2位に香里小学校が入っています。第7回大会では、枚方勢が上位を総なめするという快挙で、田口山小学校は優勝、第2位が春日小学校、第3位が開成小学校、第4位が菅原東小学校となっていて、上位を独占してさらに第6位に香陽小学校、第8位に香里小学校が入り、クラス別では第3位に香陽小学校が入っています。この好成績の要因でございますが、これは平成11年度から実施をしている枚方市小学生駅伝競走大会があるのではないかと思います。各小学校がこれを目標に計画的に練習を行っておりまして、年々そのレベルが上がってきています。今年度枚方市小学生駅伝競走大会では、5位までが大会新を出したということでございます。

次に2月17日ですが、サンプラザ生涯学習市民センターの市民ギャラリーで枚方市内中学生の美術展がございましたので行ってまいりました。あいにくの雨で鑑賞者はあまりいらっしゃらなかったのですが、その分じっくり鑑賞することができました。中学生の素晴らしい作品や力作について見入ってしまいました。

次に2月21、22日の2日間にわたりまして、教育委員の視察研修に行つてまいりました。21日は東京都千代田区九段小学校での放課後子ども対策事業について、22日は金沢市教育委員会と金沢市立泉中学校を視察いたしました。他の委員さんから詳細についてご報告があらうかと思いますので、私からは大変有意義な研修であったということだけ申し上げておきたいと思つています。

3月5日日曜日、中央図書館で第2回中学生のビブリオバトル大会が開催されました。谷元委員もいらしてました。参加者は今回19校中8校の参加でしたが、ぜひ全校から参加者が出てもらいたいと思つています。出場した中学校の校長先生方も見えていましたが、渚西中の谷川校長先生は、学校を挙げてビブリオバトルに取り組んでいるという報告をされました。前任校でも実施されていたということでありましたが、本市の中学生の不読率については少し気になるところで

ございますので、ぜひ他の中学校でもこのビブリオバトルを学校として取り組んでほしいと、このように思った次第です。

次に社会教育課で実施している社会教育基礎講座についてです。2月25日にエンディングノート普及協会代表理事の赤川なおみ先生に来ていただいて、エンディングノート活用術をテーマに現代の終活事情からノートの書き方、活用方法についてお話をいただいたそうです。3月2日に行われる第2回目では、日本尊厳死協会関西支部理事の小澤和夫先生に来ていただいて、終末期医療について学ぶをテーマに、どのような終末期医療を選択するかを初めとして、自分らしい人生の終わり方について考える機会となるようなお話をいただけるそうです。なお、申し込みにつきましては大変盛況のようで、既に定員をオーバーしてキャンセル待ちが出ている状況だそうでございます。

次に、ただいま議会中でございます。平成29年度の市政運営方針に対する各派代表質問が行われました。教育委員会の所管する事業についても多くの質問がありました。教育委員会に対しましては、子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす学校教育の充実についてを初め、全ての会派から35件の質問がございました。

まず、管理部の所管事務については中学校給食の全員喫食の実現、給食調理場の整備に関する事、学校規模等の適正化に関する事、教育用ICT機器の整備・計画に関する事について質問がありました。中学校給食の全員喫食の実現については、代表質問で市長も答弁されましたが、実施方法や実施時期等について検討を進め、保護者や生徒の意向も把握する中で、平成29年度中に方向性をまとめていきたいと考えています。

学校教育部には、重点施策である子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす学校教育の充実についてを中心に、全ての会派から19の質問がありました。学力向上に特化したコーディネーターの役割、全国学力学習状況調査の結果の活用、学校図書館の充実など児童・生徒の学力向上については4つの会派から質問を受け、改めて市議会の関心の高さを感じました。

社会教育部に対しましては、留守家庭児童会室と全児童を対象とした放課後対策の一体的な推進に向けた検討などの重要施策を中心として、全児童を対象とした放課後対策の具体化や学校図書館の充実策、図書館への指定管理者制度導入の拡大、野外活動センターの活性化などについて5つの会派から10の質問がありました。学校教育と社会教育の連携が枚方の教育全体を活性化し、学校教育と社会教育は教育を牽引する車の両輪であることを改めて感じさせられました。

最後に3月6日ですが、本市の臨時講師が覚せい剤取締法違反、使用容疑で逮捕されるという、あってはならない事案が発生いたしました。残念であるとともに保護者、児童・生徒、市民の皆様には心よりおわびを申し上げます。講師採用における面接等で見抜けなかったのか、当該講師の日ごろの言動の中に今回の事案に繋がるような兆しはなかったのか、また、教職員が何らかの異変に気づくことがなかったのか、また、なぜ今回の事案が起こったのか、その防ぐ手だてはなかったのかと思いますと悔やまれてなりません。翌日には臨時校園長会を招集し、教育長通達を出して全教職員への服務規律の徹底を指示しましたが、今後総力を挙げて事案の再発防止と服務規律の徹底、枚方の教育に対する信頼の回復に努めていかなければならないと考えています。

以上で、私からの報告は終わります。

それでは吉村委員、ご報告をお願いします。

○吉村委員 それでは私は、先ほど教育長からありました2月の21、22日の教育委員会の管外の視察についてご報告させていただきたいと思います。

私からは主に初日に行きました、東京都千代田区の九段小学校の放課後の全児童対策について述べさせていただきたいと思います。他の教育委員の皆様についてもまた述べていただきたいと思いますけれども、石川県金沢市については少し控えさせていただきたいと思っています。

ここの放課後の留守児童の全児童対策等については、行政とタイアップをしております、実際にNPO法人と契約をしながら、そのメニューについて実際に保護者や子どもたちのニーズを酌んだ上で、一定の時間について勉強、スポーツ等に取り組むということで、非常に中身について興味がありましたので聞かせていただきました。この留守家庭も含めて枚方でも放課後の子どもの居場所づくりとか、心地良い居場所づくりということが本当に求められて、子どもが習い事に行ったりという部分もあると思うんですけども、仲間たちと一緒に活動できる時間は非常に貴重なものだという気がしました。たまたまその中の指導員でNPO法人の代表の方が、あるスポーツを通じて子どもたちと関わっているということで、フライングディスクという話がありまして、その競技はアルティメットという競技なんですけど、終わってからその指導員の方に「アルティメットをやられてるんですね」と言ったら驚かれた顔をして、「今までたくさん視察に来られたけども、フリスビーという言葉からそこを連想した方は初めてで非常にうれしいです」ということをおっしゃいまして、その方とメールでその後も様々な情報交換を現在もさせていただいています。こういう視察というのは、もちろん行政的なことでのやりとりということはあるんですけども、人のつながりはすごく大事だということを強く感じさせていただきました。今後、枚方でもこの取り組みが有効なものになっていけばいいと思います。

それから先月も最後の方に言わせていただいたんですけども、この協議会は年度としては最後です。学校の管理・運営あるいはスポーツの指針等、大きな内容がこの時期に出て、枚方市教育委員会の今後の方向性とか考え方の指針になっていくということで、毎年感慨深く見ながら、まとめていただいた皆さん方に、非常に敬意を表したいと思います。それぞれの所で新たな新年度を迎えまして、ご活躍いただきたいと思います。教育委員会で我々も本当に頑張っていけないといけないと思います。新年度になりメンバーが変わられても、その考え方や基本的なことを引き継ぎながら、今後もしっかりとやっていきたいということを感じました。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは、橋野委員をお願いします。

○橋野委員 私も2月18日に教育長も行かれました第35回市内公立中学校生徒美術展に、サンプルザ生涯学習市民センターに行かせていただきました。どの作品も力強く繊細で、さすが中学生の作品だと思うものばかりで、美術の先生の熱意も伝わってくるいい美術展でした。年配の方もたくさん来られ、お孫さんの作品を見に来られたのかカメラに収めたり、指を差し笑顔の方もおられ、ほのぼのとした中、見させていただきました。たくさんの方々に見いただき、展示しても

らえる喜びと、美術への意欲に対してとてもよい取り組みだと感じました。

2月21、22日には東京、金沢と私も視察に行かせていただきました。千代田区の九段小学校の全児童を対象とした放課後対策に向けての視察でした。本市ではいきいき広場の名称で、学校ごとに土曜日に地域の方々と触れ合い、お弁当を持ち、1日学校で過ごせるシステムがありますが、昨年11月にありました放課後の過ごし方についてのアンケートでも、2年生は32%、4年生では25%の子どもたちが利用されていることがわかりました。子どもたちの大切な時間を学力向上、体力向上に向けて放課後を魅力ある有意義なものにしていきたいと感じました。22日には、金沢市役所で金沢の教育について教えていただきました。金沢子どもかがやき宣言があり、「すすんで学び、考えます「きまりや約束を守ります」「すすんであいさつをします」「笑顔を大切にします」「思いやりの心を大切にします」「ありがとうの気持ちを伝えます」「毎日元気にすごします」「夢に向かって挑戦します」「わたしたちは、ふるさと金沢を愛し、誇りを持ち、未来に向かってかがやくように行動します」とありました。とても簡単に聞こえたのですが、とても深い言葉が並んでいるように思いました。金沢型学習プログラムでは、金沢ベーシックカリキュラム、金沢ふるさと学習、金沢「絆」活動と中学校生徒会同士の繋がりもあり、子どもたちの活動のバックアップもされ、伝統ある金沢のまちを大切にされているのが伝わりました。

次に金沢海みらい図書館に行きました。白い箱型で駐車場も広く、大きな吹き抜けがおしゃれな図書館でした。休館日にお邪魔させていただいたのですが、知らずに来られている方が何名もいて、市民に広く活用されている図書館なのがわかりました。その後金沢市立泉中学校に行き、目指す教育像として、教育のプロとして、使命感、学び続ける教師とあるように、どの先生もわかりやすく、生徒たちと向き合っておられ、信頼されている先生方なのが伝わってきました。言葉がけが大切で、褒めるより認めるという指導をされていました。

私も教育委員として活動させていただき1年が経ちました。教育に携わるたくさんの方々との出会い、たくさんのお考え、本市に対する教育の在り方等、たくさん学ばせていただいたように思います。ありがとうございます。中でも家庭学習の必要性については、低学年の間は平仮名や九九、家庭でも一緒に勉強していたのですが、だんだんと学校任せ、塾任せになっているという声も皆さんおっしゃっていました。いま一度子どもたちと向き合い、少しの時間でもたくさんのお家で一緒に勉強できる環境になればと感じました。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

次に神田委員をお願いします。

○神田委員 私も今日は2月21、22日の教育委員の視察についてご報告したいと思います。21日の千代田区立九段小学校の視察は、先ほどお二人の委員さんからありましたので、少し別の角度で簡単にご紹介したいと思います。

島崎教育長と担当の方、また委託されているNPOアフタースクールの方から説明を受けました。千代田区の放課後の全児童対策の学童クラブは小学校8校のうち1校は区立で、7校は民間で実施されています。全区で実施されているということです。放課後子ども教室、いわゆる枚方市の留守家庭児童会室ですね、これと学童クラブが並行して運営されているということで、この

学童クラブは約50%の登録、参加率は平均して20%、1年生から4年生の参加が多いということでした。民間のNPOアフタースクールには委託金とか料金で2,400万円ということで、この内容等について、また事業の委託後について、これからの枚方市の放課後全児童対策の運営やその内容について参考になったと思っています。

2点目は、翌日22日に金沢市の教育関係施設を訪問したことをご報告したいと思います。金沢市は久しぶりに行きました。人口約46万5,000人中核市です。小学校55校、中学校が24校、高等学校が1校と公民館が60あります。今年度の予算は資料を見ますと、1,723億5,000万円、教育費が約195億5,000万円で予算の11.3%です。高等学校がありますので少し多いと思います。枚方市より人口等含めて2割ほど大きい都市となりますが、面積はかなり広いです。江戸時代に加賀百万石の城下町と栄えて、人口規模では江戸時代は江戸、大阪、京都の3都について名古屋と並ぶ大都市であったということです。やはり古都のイメージがあって、風格のあるまちであると感じました。また現在、北陸新幹線の駅もあって駅前是非常にビルもたくさん、ホテルもあって、非常に発展しているまちだと思いました。

金沢市の教育委員会では、野口弘教育長から金沢市の教育の概要について説明を受けました。「平成25年度から今までの特に取り組んでいることについて焦点を当ててアピールしてきたけれども、もう一度事業全体を見直して、しっかりビジョンを持って取り組むようにしてきた」ということを言われたのがとても印象的でした。その後、学校教育部の学校指導課の担当主任指導主事から丁寧な説明を受けました。作成されたリーフレットやパワーポイントの説明で、教育長の考えられている金沢の教育のビジョンが大変よく理解できました。先ほどもお話ししましたが、金沢市では学校教育振興基本計画は枚方市よりも1年半ほど早い平成27年1月に策定されています。この計画の基本理念やめざすべき金沢の子ども像の実現に向けて、取り組むべき施策の考え方を重点化・焦点化して、知・徳・体の調和の取れた児童生徒の育成や、金沢に愛着と誇りを持てる教育を推進していくことが重要であると、このようなことを踏まえて、平成27年7月に新たな学校教育モデルを構築して、高い教育水準の確立を目指すとしています。この新たな学校教育モデルが、先ほど出てきました「金沢型学校教育モデル」ということで、1つは子どもたちが何を学ぶかという内容の「金沢型学習プログラム」、どのように学ぶかという「金沢型学習スタイル」、それらを支える学びの土台として「金沢型小中一貫教育」の3つで構成されているということです。

今、枚方市が進めている教育振興基本計画の進め方において、非常に参考になる先進的な取り組みであったと思います。先ほどもお話ししましたが、1つは「金沢市教育行政大綱」。これは市長部局で作られたということで、これをさらに振興基本計画と、そして金沢の教育で「金沢型学校教育モデル」と、だんだんより具体化になっていって非常にわかりやすい指導で、これは誰が作成されたのかと言いますと、この学校教育の3部は指導主事を中心に作成されたということで、これは非常に参考になるので、また見ていただければと思っています。

「金沢型学習スタイル」は今、枚方市が進めている授業スタンダードと同じ内容ですので、より具体的にどう進めていくのか参考になりますし、先ほど話しました小中一貫教育も金沢市小中連携をさらに充実発展させるという捉え方で9年間を見通した連続性のある教育活動ということ

で、これも参考になろうかと思っています。その取り組むべき5つの内容は先ほどお話したとおりなのですが、そういうことを教育委員会がきちっと示して、その内容について各学区で考えましょうということなので、やはり市全体が取り組むべき方向が、必ず子ども像に向かって、各小学校、中学校の教育計画に基づいて、また、中学校区で共通理解をして市全体ですということ、非常に明確にされているということを感じました。

金沢市では、そのために平成28年度より全小中学校において、先ほどの「金沢型学習プログラム」、先ほど橋野委員から説明がありました「金沢ベーシックカリキュラム」、いわゆる人権教育や道徳教育なんですけれど、「金沢ふるさと学習」「金沢「絆」活動」、いわゆる自分のまちに誇りを持つようなカリキュラムですね、そういうものを各学校で取り組み、そして「金沢型学習スタイル」と2つを進めていくために、研究指定校を指定しております。「金沢学習プログラム」は、重点指定校として小学校4校と中学校2校、「金沢型学習スタイル」は、重点指定校として小学校9校と中学校3校と、このような指定校を決めて研修をしていく、成果を広めていくということです。そこで、このような金沢の学校の取り組みを教育委員会はどのように指導されているのか質問しますと、3つのパターンで学校訪問をし、指導しているということです。1つ目は小学校が3年に一度、中学校は2年に一度、1日かけて学校訪問します。これは教育内容等を含めてだと思います。2つ目は担当校訪問として指導主事が16名おられるということです。首席の指導主事2名を除いて14名で1人5、6校を担当して、年間2回、半日も学校訪問しているということです。3つ目は行政訪問として、いわゆる校内研究の研究授業の指導で、年間小学校で約460回、中学校で140回と、学校数は小学校55校、中学校24校ありますから、かなりされています。ただ、中学校がどうかというと、まだ課題だとおっしゃっていました。しかし140回というのはかなりの回数だと思います。これは今の指導主事と退職校長のアドバイザーを加えて訪問しているということです。また新たに、学力向上支援訪問や学力調査を分析して、その結果に基づいた市全体の取り組みを構築するために、学力向上対策係というものを課に設置をして、担当指導主事1名と非常勤2名の3名で取り組んでいるということです。

金沢市では、このように取り組みを具体化していくために方針・指針を示して、指導主事等が学校に行き、指導を支援しているということがよくわかりました。これは今後、枚方市でも参考になるのではないかと思います。

午後はその重点校の1つである泉中学校を訪問をしました。生徒数は401名、学級数は14学級で、ここは35人学級をしているということです。この1月に校舎が新築され、本当に新しい学校でした。小学校が隣に新築され、廊下が繋がっておりますが、小中一貫教育で先生同士が交流とか、そういうことは教育委員会はしなくていいということです。なぜかと言いますと、もう1校離れた小学校が別にあるため、あまりにも差ができてはいけないということで、いわゆる施設分離型のような小中一貫教育をしているということです。寺本弓子という校長から1時間、1年生から3年生までの授業を案内していただきました。どの教室に入っても何かしらぴんと緊張感のある授業を行っており、素晴らしいと思いました。授業展開はもちろんですが、先生の服装、話し方、生徒との関係等に惹きつけられました。特に印象的だったのは音楽の授業で、音楽の授業となりますと騒がしいということもあるんですけども、教室に入りましたら卒業式に歌う課題

曲について、先生が書かれた目当てについて、生徒がずっと黙って考えていました。曲は流れていました。それについてあなたがどうイメージを持って、どう歌うかということを考えさせていて、音楽でこんなに素晴らしい授業は初めて拝見しました。もう一つ素晴らしいと思いましたのは、どの先生も同じなんですけれども、板書が非常に素晴らしくて、中学校でも系統的にきちっとわかりやすく書かれており、非常に印象的でした。

この後、寺本校長から学校の概要を校長室でパワーポイントで説明をしてもらいました。今年度の重点は9年間を見通して、重点課題として学力向上、授業改善と家庭学習に係る指導、不登校対策解消と事前防止策、2点目はきめ細かな対応と家庭との連携というようなことを話されておりました。重点校ということもありますが、金沢市が具体的に進めている教育の内容を具体的に参観させていただいて、非常に勉強になりました。校長先生に学校での校内研究授業はどうされているのか質問しますと、特段大きな研究会というのはやっておらず、年2回全員が公開授業をしていると。ただそれだけでこんなにいくのかと聞きますと、毎週、週案を全職員が持って来て全部見ている、どの時間にどんな授業しているかわかっているということなので、教室に入ったらぱっとわかると言われていました。これが学校経営のポイントかと改めて感じました。

この2日間、スケジュール的には非常にハードでしたが、疲れを感じないほど有意義な研修で、本当にいい勉強をさせていただきました。事務局の皆さんには、こういう設定をしていただいて非常に感謝しております。研修というのが何かということをよく若い頃校長に指導されましたが、研修は研究と修養だと、改めて教育委員も研究と修養をする必要があると思った2日間でした。

最後になりますが、この1年間、新人の教育委員に対して、様々なご指導、またご支援いただきまして、感謝申し上げます、3月末の所感とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○奈良教育長 ありがとうございました。

次に谷元委員、お願いします。

○谷元委員 3月1日の枚方平和フォーラムと5日の第2回中学生のビブリオバトルについて報告します。

ひらかた平和フォーラムでは交北小学校4年生、小倉小学校6年生、桜丘中学校2年生が平和学習の成果の発表を行いました。交北小学校4年生の子どもたちは沖縄の小学校1年生安里有生くんが書いた詩「へいわってすてきだね」の絵本をスライドで見せながら、会場に来ている人たちに読みました。「へいわってなにかな」と問いかけることからこの詩は始まり、「やさしいところがにじになる。へいわっていいね。へいわってうれしいね」と心を込めて群読しました。平和であることの幸せを改めて、聞いている私たちに教えてくれたように思いました。小倉小学校6年生の子どもたちは、11月に修学旅行で訪れた広島市の平和公園でのセレモニーや、平和記念館で見た原爆の悲惨さを一人一人自分の言葉で表現し、歌とともに発表してくれました。桜丘中学校2年生の生徒たちは、国語科の授業で学んだ「名づけられた葉」を2年生全員で歌いました。

「ポプラの木にはポプラの葉」の歌い出しで始まるこの曲の歌詞は、緑の木々茂る一枚一枚の葉に一人一人の人生を重ね、名づけられた葉としての私が生き方を考えさせられるというテーマで書かれています。生徒たちの歌は、これから自分たちが歩む人生を一生懸命生きていこうと思

を込めた合唱になっていたと思いました。それぞれの学校、学年が特色を出しながら、平和を願うメッセージが込められた内容で、学習の成果が表れていてよかったですと思います。

次に中央図書館で行われた第2回中学生のビブリオバトルについてです。ビブリオバトルは人を通して本を知る、本を通して人を知る、本を介したコミュニケーションゲームだそうです。初めは5つのグループに分かれて予選が行われました。グループの人数は5人か6人で、生徒たちが自分のお勧めの本を3分間で紹介します。お気に入りの本を一生懸命紹介する生徒の姿は、その本が本当に好きで、その本の面白さを話しながら、ぜひ読んでほしいという気持ちがどの生徒にもよく表れていました。本を紹介した後は、その本について質問できる時間が3分間あり、お互いに聞きたいことを質問し合っていました。初めは緊張していた中学生たちも時間が経つにつれ緊張もほぐれ、和やかな雰囲気の中、予選が進んでいきました。予選の最後にグループ内で1番読みたいと思った本を多数決で選び、チャンプ本を決定します。選ばれた5人のファイナリストの中学生が決勝に進み、チャンプ本の紹介を会場全体にプレゼンをします。会場に来ている全ての人が、1番良かったと思うチャンプ本に投票し、優勝者を決定します。決勝はそれぞれの個性が光るすばらしい戦いになりました。観客から、もしあなたがこの本に値段をつけるとしたらいくらにしますかという質問がありました。ある中学生は、「この本はお金では買えない価値があるので、値段はつけられません」と答え、ある中学生は、「私はこの本をただにしたいです。なぜなら、たくさんの人に読んでもらいたいからです」と答えていました。参加した中学生のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の素晴らしさに驚くとともに、生き生きとした表情に心を動かされました。今回は8つの中学校から28名の生徒が参加しました。最優秀賞は蹉跎中学校2年生安井陽平君が紹介した星新一作の「きまぐれロボット」が選ばれました。蹉跎中学校からは2名の生徒が参加していましたが、校長先生も応援に来られていて、「国語の授業にビブリオバトルを取り入れています」と話されていました。ほかにもビブリオバトルを国語の授業に取り入れている中学校や学校全体で取り組まれている中学校もあるそうです。中学校の国語科担当の先生も生徒の応援に来ておられました。このような取り組みをもっと広げ、たくさんの中学生が参加する大会になればと思いました。中学生のビブリオバトルを企画・開催していただいた社会教育部中央図書館の関係者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございました。

それでは、事務局からの報告案件ですが、案件1について説明をお願いします。

位田教育指導課長。

○位田教育指導課長 案件1、平成29年度中学生チャレンジテストの実施についてご説明申し上げます。

教育委員会協議会資料1ページをごらんください。1. 趣旨ですが、平成29年度中学生チャレンジテスト実施要領に基づき、本調査に参加することについて報告するものです。

平成29年度中学生チャレンジテストに枚方市立中学校が参加することによって、府全体の状況との関係において、本市生徒の学力や学習状況を把握・分析し、本市生徒の課題改善に向けた教育の成果と課題を検証することで、今後の教育施策や教育指導に反映させ、本市生徒の学力向上

を図ります。

また、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料として、大阪府教育委員会より提供された「評定の範囲」、「府全体の評定平均」を活用し、学校の評価活動の改善と充実を図ることを目的として実施いたします。

なお、調査結果については、実施要領に基づき、これまで本市が実施している全国及び大阪府学力・学習状況調査結果、中学生チャレンジテスト結果の公表の方針を踏まえ、各学校の授業改善、家庭学習の定着等、学力向上に活かしていくことを目的に、今年度と同様に保護者や市民によりわかりやすく伝えるという観点で公表を行うことを考えております。

2. 内容でございますが、恐れ入ります、資料の2ページ、平成29年度中学生チャレンジテスト実施要領の3. 調査実施日をごらんください。調査実施日については第1学年及び第2学年が平成30年1月11日木曜日、第3学年が平成29年6月21日水曜日となります。

続いて、4. 調査内容ですが、第1学年が国語、数学及び英語、第2学年及び第3学年は国語、社会、数学、理科及び英語となります。また、生徒に対するアンケートも合わせて実施します。なお、そのほか実施要領に詳細が記載されておりますのでご参照ください。

以上、甚だ簡単ではございますが、案件1、平成29年度中学生チャレンジテストの実施についての説明とさせていただきます。

○奈良教育長 この件についてご意見、ご質問等ありますか。

神田委員。

○神田委員 来年度もこうして実施されるということは大変結構なことと思っています。ただ、今年度中学校の一部で教育課程の未修があり、課題であったということで指導されましたが、先ほど教育課程の管理というのを特に学校長は信じていく必要があるかと思っています。年間、52週ありますが、概ね学校が稼働中の週は、大体そこから7、8週。長期休業期間を引きますと43、44週だと思います。教育課程は年間35週で考えられておりますので、約7週ぐらい余分にありますが、1週25時間としますと、140時間前後だと思います。年度によって若干違います。私が現場にいる時にそういう計算をしておりましたが、140時間が教科外の活動の時間であるということです。教科によっては、その35週を $+α$ するというのも可能ですから、1割ほど増やす教科があります。ただ、その中で卒業式、校外学習等様々な行事を140時間から引いていくわけですね。そうすると、その中に様々な教育を盛り込んでいく必要があります。教科領域を超える様々な教科があります。ある校長先生が数えますと20以上あると言われている福祉教育、ボランティア教育、防災教育等。そうしますと、卒業式と学校行事を引きますとかなりの時間がなくなります。その中で授業をしっかり管理していかないと、35時間、週5時間あれば年間175時間、どう確保していくか。教育委員会は数字で各学校からデータをもとにやっておられると思いますが、教育課程の $+α$ というのは、どういう各学校の状況であるかとしっかり踏まえて、教育課程を進めていくように指導していただければと思っています。

○奈良教育長 他にご意見、ご質問ありますか。

吉村委員。

○吉村委員 後ろのスケジュール表の中で、周知用リーフレットの配送が3年生が早いわけですか

ら4月、それから1、2年生については7月ということですが、これは府の教育庁のリーフレットもまたあると思うんですが、枚方市としての新たな市としてのものなのか、あるいはこのリーフレットの中のこういうコメントという形か、保護者等の周知の方法についてお聞かせください。

○奈良教育長 位田教育指導課長。

○位田教育指導課長 基本的には、教育委員会から示されるこの周知用のリーフレットをもちまして、各学校に校長会等を通じて、特に重要視するところを指示していきたいと思っております。

○奈良教育長 他にご意見、ご質問等ありますか。

ご質問等がないようですので、本件に対するご意見、ご質問はこの程度にとどめます。

続きまして、案件2について説明をお願いします。

精木放課後子ども課長。

○精木放課後子ども課長 案件2、枚方市障害のある児童介助補助金交付要綱の廃止についてご説明いたします。

協議会資料の18ページをお開きください。初めに1. 概要ですが、枚方市障害のある児童介助補助金につきましては、枚方市内に住所を有する小学校1～6年生の障害のある児童の介助に要する費用の一部を補助する制度であります。当該補助金の利用状況及び障害のある第5第6学年児童の留守家庭児童会室運營業務委託の終了に合わせて、当該補助金について平成28年度をもって廃止することとなりました。

つきましては、当該補助金に係る枚方市障害のある児童介助補助金交付要綱の廃止について報告するものです。

次に、2. 内容についてですが、放課後等デイサービス等の障害者施策が充実していく中で、平成26年度から平成28年11月現在までの補助金の利用実績がなく、又、平成23年度より開始しております障害のある第5第6学年児童の留守家庭児童会室運營業務委託が平成28年度をもって終了するに伴い、本補助金の目的についても達成したと考えるものです。それに伴い、当該補助金の交付要綱を廃止するものです。

次に3. 施行については、平成29年4月1日から施行の予定です。

以上、甚だ簡単ではございますが、説明は以上とさせていただきます。よろしくお願いたします。

○奈良教育長 この件についてご意見、ご質問等ありますか。

ご質問等がないようですので、本件については説明の聴取程度にとどめます。

それでは、本日の協議会の案件は、以上となりますので、協議会を終了します。